

2022 SUPER FORMULA Team Report : Round 3

2022.4.26

Round 3 鈴鹿サーキット(5.807km)

この時期の鈴鹿の難しさを痛感

- ・53号車の佐藤蓮は15番手スタート、10位でフィニッシュ、1ポイントを獲得
- ・55号車の三宅淳詞はマシントラブルにより完走ならず、次戦に向け意欲

・予選4月23日: 天候: 曇り、24℃ 路面: ドライ、31℃

・決勝4月24日: 天候: 雨、17℃ 路面: ウェット、20℃

◆53号車 佐藤 蓮

予 選: 15番手(1分37秒746)

決 勝: 9位

◆55号車 三宅 淳詞

予 選: 21番手(1分38秒108)

決 勝: 21位(DNF)

4月24日(日)、2022年全日本スーパーフォーミュラ選手権のラウンド3鈴鹿大会決勝が行われ、15番グリッドからスタートしたTEAM GOHの53号車、佐藤蓮は、常時フルウェットコンディションとなった31周回のレースを10位でフィニッシュ、ラウンド1に続き1ポイントを獲得しました。また、決勝21番手からスタートした55号車を走らせる三宅淳詞は、終盤ミッショントラブルが出てしまい、残念ながら6周回を残して完走できず、3戦連続でのポイント獲得はかないませんでした。



◆チーム監督 山本雅史 のコメント

「今回は微妙なコンディションにセットアップが合わず、改めてこの時期の鈴鹿の難しさを感じました」



「決勝は、53号車では、佐藤蓮、本人の納得のいくレースをして欲しかったので、ウォームアップの8分間で蓮が感じたことを、僕とエンジニアと3人で相談した上で、最後にグリッドで1ポイント、エアロについてアジャストを入れました。それが本人としてはとても良かったみたいです。このコンディションの中で、よく頑張って1ポイント獲ってくれました。次につながるポイントだと思います」



「三宅くんの55号車についても、持ち込みのセットアップが合わずにドライバーに苦勞かけました。土曜日の午前中のFPIは気温や路面温度など大変難しいコンディションで、暑いなら暑いで良いのですが、非常に微妙なところでした。レースに『たら・れば』はないのですが、持ち込みのセットアップでうまくいかないとなった時、早い段階でがらっと方向性を変えてしまった方がよかったのだと思います」

「決勝では最後尾からのスタートで、それでも安定した走りを見せてくれていましたが、終盤でミッショントラブルが出てしまい、残念ながらリタイヤとなりました。ドライバーには申し訳ないことをしました。次のオートポリスで同じ症状が出ないようにしっかり原因究明をし、次戦にのぞみたいと思います」





◆53号車ドライバー 佐藤蓮 のコメント

「前回の富士開幕戦は、うまくいき過ぎていたんだと思いました。今回、土曜日の FP1でフィーリング良く走ることができなかったのですが、そこらうかにリカバーしていくのか、そこがうかに大切か、反省もあり、とても勉強になった大会でした」

「予選はFP1からはセットアップの方向性をかえてQ1にのぞみましたが、1 回のアタックでしっかりまとめることができなかったので Q2 に進めず、決勝は 15 番手からのスタートとなりました」

「決勝レースは後半で雨量が減ると思っていたので、前半、ウォータースプレーで前が全然見えずに正直怖かったのですが、タイヤマネジメント、特にフロントを意識して大切に走り、後半は 1 台ずつ抜いていき、終盤チャンスを見逃さずに 10 番手に上がることができました。戦略としても良かったのかなと思っています」
「次のオートポリスはSFマシンで初めて走るサーキットなので、事前の準備をチームとしっかり進めてのぞみたいと思います」

◆53号車エンジニア ライアン・ディングル のコメント

「今回用意していたアイテムがコンディションに合わなかったため、FP から予選に向けて方向性をかえることになりました。フロント、リアの車高を変更するなど、よりダウンフォースを得られるように検討したりしました。ただ、セットアップの方向性を変更後に FP なしで予選からいきなり走るとするのは難しく、クルマは良い方向にいったのですが、予選の一発でしっかりきめるというの厳しく、Q1 で敗退となりました」

「決勝日の朝の FP2ではマシントラブルがあり、あまり走れなかったのですが、ウォームアップで得られたものを最後にアジャストしてドライバーを送り出しました。蓮はポテンシャルの高いドライバーなので、ウェットの難しいコンディションの中で、マシンをうまく走らせてくれて、ポジションも上がり、ポイントを獲得できました。次戦に向けては、さらにデータを分析して、準備を進めます」



◆55号車ドライバー 三宅淳詞 のコメント

「今回は FP1からセットアップに苦労しまして、予選の攻撃でうまくまとめることができず、決勝は最後尾からのスタートでした。それでも安定したペースで走ることができ、徐々にポジションも上がっていったのですが、残念ながらマシントラブルで完走できませんでした」

「第3戦鈴鹿大会を通じて、いかに走り出しが大切かということを学びまして、次戦オートポリスについては、サーキットに入る前からの準備にもより力を入れてのぞみたいと思います」

◆55号車エンジニア 岡島慎太郎 のコメント

「今回、土曜日のFP1から予選に向けてセットアップ変更するにあたりミスがありました。そこを見直して、日曜日の決勝に向けてロングとウェットのセットアップについてシミュレーションしたりして、53号車とは違ったアプローチで変更を施しました」

「日曜日、午前中のFP2では、セクター1でアンダーステアが強く出てしまい、空力特性など、狙ったところ

と近いところまではきていたのですが、改善しきれないまま決勝を迎えることになりました。最初はそこそこのペースで走っていたのですが、雨量が少なくなり、周りがトライアップしてペースをあげていく中で、やはりセクター1でのアンダーは解消できず、周囲と同じようにペースをあげていくことができませんでした」

「終盤に出してしまったミッショントラブルは、メカニカルではなくソフトの問題かなと思いますが、まだ原因は確定できておらず、これからデータ分析をして究明します。次戦に向けては53号車の良かった部分なども参考に、さらにデータを分析してのぞみたいと思います」

